



柳澤神社

要誌

■柳澤神社 案内図



柳澤神社御鎮座
 六三九一〇二 大和郡山城内町二一八
 ■発行 柳澤神社社務所
 六三九一〇二 大和郡山城内町二一八
 TEL/FAX 〇七四三二五五一〇〇

柳澤神社と郡山城跡散策

神社本殿のすぐ東側に、最後の藩主柳澤保申公の頌徳碑が建てられている。旧藩の家臣らが保申公の遺徳を偲び、明治30年に建てたもので、碑面に藩主はよく民の生育につとめ、「仁政また久し」と刻まれている。

この地は台地形をなし、天守台は高く、東に春日若草の山々、その麓には大仏殿二月堂を望み、北には薬師寺の二つの塔が目に入る風景絶佳の地である。



御祭神 柳澤美濃守吉保公

● 創建 明治十三年

● 例祭日 十一月二日

● 御神殿 本殿（流造り）

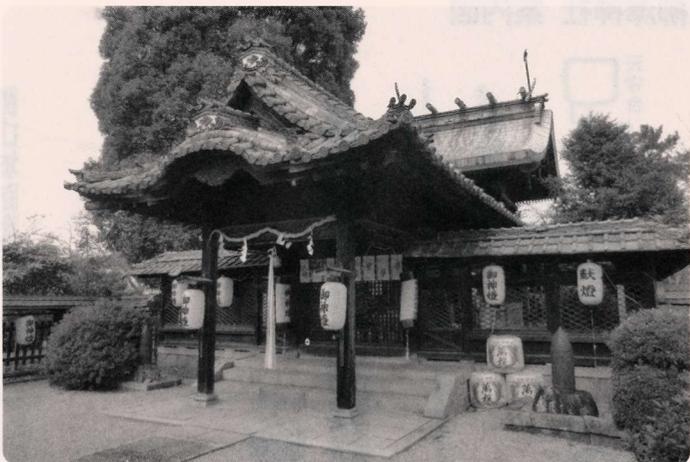
祝詞殿

拝殿（割拝殿）

手水舎

社務所

参集殿



本殿



拝殿

御祭神柳澤吉保公は、万治元年（二六五八年）、江戸に生まれ本名を保明、通称を弥太郎と称し、晩年に保山と号した。父君安忠の代から館林の綱吉公に仕え、吉保公も父のあとをついで小姓組番頭を勤めた。綱吉公が五代将軍につくと幕臣となり、元禄元年（二六八八年）綱吉公の寵愛によって一万石を加えられ側用人となる。

もとより英俊敏捷にして学を好み将軍綱吉公の意をよくとらえ、しばしば加禄されて、元禄七年には、武蔵国川越城主で老中格となる。

宝永元年（二七〇四年）、甲府城に封じられ、表高は十五万石を与えられる。

民の疾苦を問ひ、強く仁政を施し、名士も多く其門に集まり、細井廣澤、荻生徂徠は、最もよく知られるところである。

宝永六年綱吉公の死後、吉保公は東京駒込（六義園）に移り隠退する。後、剃髪して保山と号す。

正徳四年（二七二四年）十一月二日保山吉保公死す。享年五十七歳。

御子柳澤吉里公が甲府より享保九年（一七二四年）郡山に国替えとなり、柳澤藩が十五万一千石余の大名として六代一四〇年、明治維新まで続く。

柳澤神社境内および、城跡一帯で「お城まつり」が毎年三月下旬から十日間開催され、お花見をかねて、参拝者が訪れる。